

和歌山県和歌山市和佐井之口方言の待遇表現

岸江信介

I. はじめに

- (1) 調査対象地：和歌山市和佐井之口は、和歌山市街地の東部に位置し、約6km、和歌山城からバスでの所要時間は約15分程度である。和佐地区は旧海草郡和佐村から昭和20年に和歌山市に編入した。当集落は、農業中心で主として米作が行われてきた。昨今、和歌山市のベッドタウン化が急速に進んでおり、団地、新興住宅が目立ってきており、人口が急増している。ただ、井之口は調整区域となっているため、住宅等の建設が規制されおり、今尚、古い佇まいを残している。
- (2) 調査年月日 1997年3月28日
- (3) 話者：長多富美代 1915年4月11日生（82歳）・民生委員
- (4) 調査者・調査場所：長多氏自宅で、岸江が面接して行った。
- (5) 調査方法：当該調査票による質問調査。話者は、長多氏の他、同地、秦野アサノ（1899年2月16日生）、和佐の隣村にあたる和歌山市新庄の井上岩雄氏（1920年2月17日生）について、補充調査を行った。
- (6) 表記方法：カタカナ表記とする。アクセントを全回答に付す。アクセント表記はカギ式を用い、「は上昇位置を、㇇は下降位置を示すものとする。また、㇇は、直前の拍内に下降があることを示す。

II. 調査結果

1. 尊敬表現

1-1 対者敬語

- (1) A お前は 「ア㇇ンタ
元気かね 「ゲ㇇ンキ 「カ㇇ナー。
- B あなたは 「オバサン㇇
元気かね オ「ゲ㇇ン「キ。
- C あなたは オ「ジュ㇇ーサン
元気かね オ「ゲ㇇ンキデス 「カ。

「近所の年長者」に対しては、対称代名詞は通常使用されない。一種の虚構的使用として、オジサン、オバサンを用いるのが一般的である。また、「土地の目上の人」をここでは具体的に「住職」とした。ここでも対称代名詞は使用

されない。このケースでは地位名称が使用される例を示した。

- (2) A あしたは家にいるか 「アシタ ウㇿチニ 「イテル。
B あしたは家にいるか 「オバサン アシタ ウㇿチニ 「イテ「ル。
C あしたは家におられますか 「アシタ ウㇿチニ オイデテマス 「カ。

イテルのほか、オルが使われることが稀にある。オイデマス（ここでは進行態としてオイデテマス）という形式が用いられ、今のところ確認できる数少ない尊敬語形式の一つである。オイデマスは、オイデル+マス。オイデルは、共通語の「いらっしゃる」に当たる。男性には、この形式がほとんど用いられないといってよい。また、近畿中央部のように、ナハル・ナサル・ハル等の補助動詞各形式は、男女とも使用が認められない。

- (3) A あした行くか 「アシタ イ「ク。
B あした行きますか 「アヒタ イキマス 「カ。
C あした行きますか 「アヒタㇿ オイデマス「カ。

ここでは3種類の形式の使い分けが認められる。前項と同様、オイデマスが最も敬度の高い形式として現れる。

- (4) A 温泉に行かないか 「オンセン イカン 「カ。
B 温泉に行かれませんか 「オンセン イキマセン 「カ。
C 温泉に行かれませんか 「オンセンㇿ オイデマセン 「カ。

前項の形式がいずれも打ち消し形式を含む形となる。概して、ABCそれぞれを前項のそれらと比較すると、打ち消し形式を含む方がより敬度が高いということである。

- (5) A しますか ①「スルㇿ 「ン／②「スンㇿ ノ「ヨㇿー。／③「スンㇿ
ノ。「ドンナ シゴト スンㇿ ノ「ヨㇿー。
B されますか 「シゴト シマス 「カ。

Aでは、3種類の回答を得たが、②の形式が最もよく用いられる。「ヨー」・「ノヨー」は和歌山市方言で多用される注目すべき文末詞である。なお、Bには若年層で共通語を意識して、サレマスカという形式を用いるが、老年層では、上述したように、ナハル・ナサル・ハル等の補助動詞的形式がなく、シマスカが最も敬度の高い形式である。

- (6) A 見ましたか ①「ミ「タ／②「ミㇿタ 「カ。
B 見ましたか 「ミマㇿシタ 「カ。

ここでも、最上位形式の回答を求めたBには、素材敬語（尊敬語）が現れない。

- (7) A タベは何時に寝ましたか ヨン「ベㇿワ イツゴロ ①「ネㇿタ ン 「
ヨㇿー。／②「ネㇿタ 「カ。
B タベは何時に寝ましたか ユー「ベㇿワ ナ「ンㇿジニ 「ヤスミマシㇿ

タ 「カ。

C 寝てください 「ネテ ヨー。

Aのネタという形式に対して、Bではヤスムが用いられている。ネマシタカではややぞんざい、かといってネルにナハル・ハルなどの補助動詞を用いて待遇することがないので、ヤスムという形式が使われたのであろう。

(8) A どこに行っているのか 「ドコニ イッテン」 ノ「ヨ」ー。

B どこに行っていますか 「ドコニ イッテマス 「カ。

C どこに行っていますか 「ドコニ イッテマス 「カ。

B・Cともに待遇差がない。

(9) A どうぞ食べてくれ ①タベ「テ。／②タベテ 「イタ。

B どうぞ食べてください 「ド」ーゾ タベテ イ「タ。

C どうぞ食べてください 「ド」ーゾ オアガリ「クダ」サイ。

タベテイタのイタは、「頂く」の変化形。四国の高松でも同形式が用いられる。また、三重県名張市には、同じ「頂く」から変化したダーコという形式がある。

(10) A その写真を見せてくれないか ①「ソノ シャシン」 ミセ「テ。

／②「ソノ シャシン」ミセテ 「イタ。

B その写真を私に見せてくださいますか ①「ド」ーゾ 「ソノ シャシン」 ミセテ 「イタ。／②「ソノ シャシン」 ミセテ

「イターカシテ。

C その写真を見せてくださいますか 「ド」ーカ 「ソノ シャシン」 ミセテ 「イターカシテ。

イタよりさらに待遇価が高い形式がイターカシテ（「頂かして」）である。

1-2 第三者敬語

(11) A あしたは家に居るだろう 「イテル」ヤ「ロ。

B あしたは家に居るだろう 「イテル」ヤロ カ「ナ。

C あしたは家に居られるでしょう オイデテ「ル」ヤロ 「カ。

Cは第三者に対して尊敬語が用いられる数少ないケースであるといえよう。これは、オイデルという尊敬語形式があるからである。以下の項目の中には、たとえ目上であっても、尊敬語が用いられないものが多いが、それは尊敬を表す形式が存在しないということに他ならない。

(12) A 居なかった ①「イテ」へ「ナ」ンダ。／②「イテ」ナンダ。

B 居なかった ①「オラ」ナンダ。／②「イテ」ナンダ。

C 居なかった ①オイデテ「ナ」カッタ。

前項同様、Cに対してオイデテナイという尊敬語が用いられる。

- (13) A そう言った 「ソㇿー 「ユㇿータ。
 B そう言った ①「ソㇿー 「ユㇿータ。／②「ソㇿー 「ユータンㇿヤㇿ
 ソㇿーナ。

ここでは、前述したように、ユータ（言った）に対する尊敬語形式が存在しないため、用いることがないのである。

- (14) A 今そこに行っていた ①「イタㇿンヤ。／②「イチャㇿーッタンヤ。
 B 今そこに行って居られた 「イチャㇿーッタンヤ。
 C いまそこに行って居られた ①オイデㇿテㇿタ。／②オイデㇿチャㇿー
 タ。

ここでは、イチャーッタ／オイデチャーッタという使い分けが認められる。

- (15) A 友達が来ている ①「ツレ キテ ラー。／②「ツレ キチャㇿー
 ラ。
 B 来ている ①「キテ ラー。／②「キテル ヨ。／③「キチャㇿール。
 C 来ている ①オイデㇿチャㇿール。

存続を表す形式は、「である」が融合したチャール。キチャール／オイデチャールの使い分けが認められる。キテラー・キテル等のテルは、進行態を示す。このケースでは、テル、チャールの両方使用されるという報告を受けた。

- (16) A 仕事をしている 「シゴト シテ ラ。
 B 仕事をしている 「シゴト シテ ラー。

使い分けがない。理由は上述したように、「している」の尊敬語形式がないためである。

- (17) A 見せてもらった ①ミセテ 「モㇿータ。／②ミセテ 「モㇿロタ。
 B 見せてもらった ①ミセテ 「モㇿータ。／②ミセテ 「モㇿロタ。
 C 見せてもらった ①ミセテ 「モㇿータ。／②ミセテ 「モㇿロタ。

「見せて頂いた」にあたる形式はない。ミセテモータとミセテモロタの両方がそれぞれA・B・Cで使われるが、話者の内省によると、両者には待遇差がないということである。

- (18) A 見せてくれた ①ミセテ 「クㇿレタ。／②ミセテ 「クㇿレタン ショ。
 B 見せてくれた ①ミセテ 「クㇿレタ。／②ミセテ 「クㇿレタン ショ。
 C 見せてくれた ①ミセテ 「クㇿレタ。／②ミセテ 「クㇿレタン ショ

前項に同じく、「見せて頂いた」にあたる形式は存しない。使い分けがない。「ンショ」は「のだよ」にあたる形式。

- (19) A 私にくださった ①「ワテニ クㇿレタ。／②「ワテニ クㇿレタン シ
 ショ。

- B 私にくださった ①「ワテニ クㇿレタ。／②「ワテニ クㇿレタン ショ。
 前項に同じ。「くださった」にあたる形式は存しない。

- (20) A いただいた ①「モ」ロタ／②「モ」ータ。／③「モ」ータン ショ。
 B いただいた ①「モ」ロタ／②「モ」ータ。／③「モ」ータン ショ。
 前項と同じ。「いただいた」にあたる形式は存しない。

2. 謙譲表現

2-1 謙譲表現

- (21) A 私も 「アテ」モ
 B 私も 「ワタシ」モ
 C 私も 「ワタシ」モ
 アテ／ワタシの使い分けが認められる。因みに老年層男性では、A・Bでは、「ワイ」モ。Cでは、「ワタシ」モ。或は、「ジブン」モ。
- (22) A 十分に食べました ヨ「ー」ケ 「ヨバ」レタ。
 B 十分に食べました ①ヨ「ー」ケ 「イタダキマシ」タ 「ヨ。／②「ヨ
 「ー」ケ 「ヨバレマシ」タ。
 Bではイタダキマシタの方がヨバレマシタよりも品位が高いという内省を得た。
- (23) A 持ちましょう ①「ワタシ」モ「タ。／②「ワタシ」モツチャゲ 「
 ラ。
 B 持ちましょう ワタ「シ」モチマ「ス」ワ。
 A①のモタは、「持つわ」の融合形。A②のモツチャゲラは、「持ってあげるわ」の融合形。
- (24) A 待たせたね 「エ」ライ マッテ「モ」ロテ 「ノ。
 B お待たせしました オマタセ「シマ」シタ。
 C お待たせしました ①オマタセ「シ」テ スミマセ「ン。／②オマタセ「
 シマ」シタ 「ナ」ー。
 AとB・Cとで、使い分けが認められるが、後者に現れる謙譲形式、オマタセシマシタ、オマタセシテスミマセンなどは、共通語を意識したものであろうか。
- (25) A 駅で待っているよ 「エキデ」 マッテ 「ラ。
 B 駅で待っていますよ 「エキデ」 マッテ「マス」ヨ。
 C 駅で待っていますよ オマチ 「シテマス。
 前項同様、Cの謙譲形式は、土地的なものかどうか、共通語を意識した可能性が高いと思われる。マッテラは、「待ってるわ」の融合形。
- (26) A 言ってくれ 「ユートイテ」ヨ「ー。
 B 言ってくれ 「ユーテクレマス。

C 言ってください 「ユーテクダサㇿイ。

この場合も、話し手に応じての使い分けが明らかである。但し、「言って」の部分に尊敬語が現れるということはない。

(27) A これをやろう ①「コレ アゲ ラ。／②「コレ ヤ ラ。

B これをあげましょう「コレ アゲ ラ。

C これをあげましょう①「コレ アゲマス。／②「コレㇿ サシアゲマ「ス。

男性の場合は、相手に応じてヤルとアゲルの使い分けがはっきり現れるが、女性の場合は、A・B・C、いずれの場合にもアゲルが使われる。

2-2 身内敬語

(28) A 買ってやった 「コーテ ヤッㇿタ。

B 買ってやった 「コーテ ヤッㇿタ ンヨ。

C 買ってやった 「コーテ ヤリマシㇿタ。

話題の人物がここでは「孫」であるから、ただ、Cに対して丁寧語が使われるにすぎない。

(29) A 主人はもう帰っている 「カイツテマス。

B 主人はもう帰っています 「カイツテマス。

当地では主人に対して敬語（尊敬語）を使うことはない。

3. 丁寧表現

(30) A 行くよ ①「イ カー。／②「イ カヨー。

B 行きます 「イキマス。

イカーは「行くわ」、イカヨーは「いくわよ」の融合形。和歌山市方言では両者とも最もよく用いられる形式である。

丁寧語として、マスがよく用いられる。

(31) A 寒いね キョーフ 「サㇿムイ 「ナㇿー。

B 今日は寒いね キョーフ 「サㇿムイデス 「ナㇿー。

C 今日は寒いですね キョーフ 「サㇿムイデス 「ナㇿー。

Aでは、文末詞「ナー」の代わりに「ノシ」を用いることが過去にあったという報告を得た。この話者（82歳）の母や祖母の時代の話である。

○ 「サㇿムイ 「ノㇿシ。

但し、この文末詞は現在では全く聞くことができない、既に死語化した形式である。丁寧語としてマスがよく用いられる。

(32) A 居るよ 「イテ ラ。

B 居ます 「イテマス ヨ。

イテラは「いてるわ」の融合形。イテルのほか、男性ではオルを用いること

がある。イテルよりもややぞんざいなため、女性にはほとんど使用されない。

「ラ」は、前述したように、イテルのルにワが融合したものである。ただ、和歌山市方言で有名なイコラ（行こうよ《勧誘》）の場合のラは、一種、文末詞として独立したと認定したい。

- (33) A よかったねえ 「ヨ」カッタ 「ナ」ー。
B よかったですねえ 「ヨ」カッタデス 「ナ」ー。
C よかったですねえ 「ヨ」カッタデス 「ネ」ー。

文末詞ナーとネーの使い分けが認められる。但し、ネーは、あまり使われることがない。

- (34) A そうか ①「ソ」ー カ。／②「ソ」ー カイシ。
B そうですか 「ソ」ーデス カ。
C そうですか 「ソ」ーデス カ。
B・Cでは差がなかった。

4. 人間関係に応じた待遇表現

4-1 特定表現の待遇表現

- (35) その角を曲がって右へ行くと～ 「ソ」ノ「カ」ド「マ」ガッテ「ヨ」ー
「ミ」ギー「イ」ッッタラ
※ マガッテモラッテという言い方はしない。
(36) とんでもない ①「チ」ガ「ワ」ー。／②「チ」ガイマス。
※ トンデモゴザイマセンという言い方はない。

4-2 多人数場面の待遇表現

- (37) 村（町内）の寄り合いで、何かの世話役を頼まれ、それを引き受けるとき。
「マ」ニ「ア」イマセン「ケ」ド「ウ」ケサセテ「モ」ライマス。
比較のため、男性の回答も以下に示しておく。
「ヨ」ッシャ。「ワ」カッタ「ヨ」。（男性・老年層）
(38) 村（町内）の会合で挨拶することになり、「今度の旅行には参加者が少ないので、皆さん参加してほしい」というとき。
コ「ン」ドノ「リ」ョコーニワ {①サンカシテク「レ」ヘン「カ」。／②サンカシテクダ「サイ」。}
①は、極めて親しい者同士が集まった場合。②では、全体会でやや聴衆が多い場合やある程度、フォーマルな場合。
比較のため、ここでも男性の回答を以下に示しておく。
サンカガ「スク」ナインデ「デ」キルダケサンカシテク「レ」ヨ。（男性・老年層）

4-3 位相による待遇表現

- (39) 朝9時頃に、近くの道路で、次にあげる人に出会ったとき、《(A)》どのように挨拶しますか。そして、その後、《(B)》「どこへ行くのか」を尋ねるのにどのように言いますか。
1. お寺の住職さん (A) オ「ジュ」ッサン。オハヨ「ゴザイマス。(B) ①「ドコ」エ オイデマス 「カ。／②「ドチラ」エ オマイ「リ」デス 「カ。
 2. 校長先生 (A) オハヨ「ゴザイマス。(B) ①「ドコ」エ オイデマス 「カ。／②「ド」ッカエ オデカケデス 「カ。
 3. 見知らぬ年配の男性 (A) オハヨ「ゴザイマス。(B) 「ドコ」エ オイデマス 「カ。
 4. 見知らぬ年配の女性 (A) オハヨ「ゴザイマス。(B) 「ドコ」エ オイデマス 「カ。
 5. 顔見知りの年上の男性 (A) ①オハ「ヨ」ーサン。／②「ハ」ヤイ 「ナ」ー。(B) 「ドチラ」エ 「イク」 ン「ヨ」ー。
 6. 顔見知りの年上の女性 (A) ①オハ「ヨ」ーサン。／②「ハ」ヤイ 「ナ」ー。(B) ①「ドチラ」エ 「イク」 ンヨ。／②「ドチラ」マデ 「イク」 ンヨ。
 7. 10歳ほど年下の見知らぬ男性 (A) ①オハ「ヨ」。／(B) 「ド」コ 「イク」 ンヨ。
 8. 10歳ほど年下の見知らぬ女性 (A) ①オハ「ヨ」。／(B) 「ド」コ 「イク」 ンヨ。
 9. 同級生の男性 (A) ①オハ「ヨ」ー。(B) ①「ド」コ 「イク」 ン。／②「ド」コ イッキヤー。
 10. 同級生の女性 (A) ①オハ「ヨ」。(B) ①「ド」コ 「イク」 ンヨ。／②「ド」コ イッキヤー。
 11. 10歳ほど年下の顔見知りの男性 (A) ①オハ「ヨ」。(B) ①「ド」コ 「イク」 ンヨ。／②「ド」コ イッキヤー。
 12. 10歳ほど年下の顔見知りの女性 (A) ①オハ「ヨ」。(B) 「ド」コ 「イク」 ンヨ。
 13. 近所の中学生の男の子 (A) ①オハ「ヨ」。(B) ①「ド」コ 「イク」 ンヨ。／②「ド」コ 「イク」 ン。／③「ド」コ イッキヤー。
 14. 近所の中学生の女の子 (A) ①オハ「ヨ」。(B) ①「ド」コ 「イク」 ン

挨拶について

相手に応じて少なくとも4種類の形式が認められた。丁寧度が高い順に、オハヨゴザイマス、オハヨーサン、ハヤイナー、オハヨである。「お寺の住職さん」・「校長先生」・「見知らぬ年配の男性」・「見知らぬ年配の女性」に対してオハヨゴザイマスが用いられる。「顔見知りの年上の男性」・「顔見知りの年上の女性」に対してはオハヨーサンとハヤイナーが用いられているが、後者は方言的な響きが強いためであろうか、これらの相手に対してにだけ使用が限定されている。「同級生の男性」以下、目下に対しては、オハヨ（一）が使われる。

「どこへ行くのか」を訊ねる場合

このケースでは以下の5種類の形式が認められた。オイデマスカ、オマイリデスカ、オデカケデスカ、イクン（ヨー）、イキヤー。前三者は、「お寺の住職さん」・「校長先生」・「見知らぬ年配の男性」・「見知らぬ年配の女性」に対して用いられる、いずれも丁寧度の高い形式である。但し、オマイリデスカは「お寺の住職さん」のみに用いられる。後二者のうち、イクンヨーは「顔見知りの男性」以下、「近所の中学生の女の子」にまで幅広く用いられている。もっとも当地では、多用される形式であるといえるだろう。イッキヤーは、「行きや」にあたり、これが変化した形式。「同級生の男性」以下、「近所の中学生の男の子」に用いられる。主として同級生以下の男性に対して用いられる形式といえることができる。これがもっともぞんざいな形式である。

Ⅲ. 総括（まとめ）

待遇表現の調査結果には、位相差が大きく関与する。その使用の使い分けに関わって特に社会的属性が、ある時には地域差以上に反映されることがある。社会的属性の中でも、学歴や職業は特に待遇表現の使用を決定づける大きな要因であろう。当報告では、当集落の中で高学歴（女学校卒）を持つ話者を選定した。にもかかわらず、I. 尊敬表現等においては、特定の尊敬動詞（オイデマスなど）を除いて一般的には、尊敬表現形式が多く現れることはなかった。これは地域的な特色としていいものである。本文中でも指摘したように、和歌山市は、少なくとも老年層では関西中央部で行われているような尊敬を表す補助動詞（ナハル・ハル等）の使用が皆無であるといつてよい。これがその大きな要因であろうと思われる。

（きしえしんすけ 宮崎国際大学）